

## ほほえみ 第64号



3月となり、寒さも和らいで、春めいた日も多くなってきました。ほほえみ読者の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。最近では溪流釣りはしていませんが、岩手県では3月からが溪流シーズンで、川辺を歩くと、ふきのとうや土筆が春らしさを感じさせます。春先の溪流は、新緑はまだ少ないものの陽射しが多く、明るいイメージです。春らしい、良い天気が続くと、外に出かけたくくなりますね。

### プラトンとアリストテレス

ギリシア哲学に詳しくはなくても、聞いたことのある二人の大哲学者です。ソクラテス → プラトン → アリストテレスという順序で互いに子弟関係であり、いずれも独創的な哲学者であったのですが、弟子であっても継承者であるかという、そうではないように思いますね。アリストテレスはプラトンを大幅に修正しているように思います。むしろ、破壊しているのではないかとさえ思います。アリストテレスはプラトンの学園(アカデメイア)を引き継いでいませんし、プラトンはギリシャ人でしたが、アリストテレスはマケドニア人であって、祖国も違います。アリストテレスはマケドニア人だから、アレクサンドロス(アレキサンダー大王)の家庭教師になる訳ですね。

プラトンは、イデア説を唱えた人物で、その名の通り、アイデアリスト(理想主義者)で詩人でしたが、アリストテレスは自然観察を背景に哲学した人であって、科学者であり、リアリスト(現実主義者)の代表と言えるでしょう。この二人の哲学が西洋文明、特にキリスト教に強く影響していくのです。

プラトンのイデアは理想を掲げ、永遠や真、善というものと密接に結びついていきます。永遠というのは、彼が打ち立てたものでしょうね。インドでは、長い時間を「劫」といいますが、これは100年に一度、天女が下りてきてその羽衣で20Km四方の大きな岩を、一回さっと撫でる、その岩が磨滅してなくなる時間ということ、極めて長い時間ですが、あくまで有限な時間です。極めて長い時間を措定しても、永遠ではない、ここに絶対的な違いがあると思います。すなわちプラトンの、永遠なるものは神の概念に近いと思います。

一方、アリストテレスは、思念の世界に根拠を置くより、現実を見つめています。アリストテレスは、特に後世になると、科学的な領域で書き換えが必要となるのですが、驚くほど体系的な考え方の持ち主です。恐らく、彼の場合、非常に体系的で論理的です。逆に言うと直観的ではない。

仮に形而上学を扱っても、「物事を動かす原因であって、それそのものは自律していて動かない」→ 不動の動者 というものを考え出しています。不動の動者を直観したというより、理性で突き詰めていって、不動の動者でなければならないと導き出す訳です。これが体系化すると、スコラ哲学というものが生まれ、キリスト教のバックボーンとなり、世界観を形成するのですね。

実は、永遠とか、真とか、一とか(存在そのもの)とかは、証明できない性質のものと考えられていて、永遠を思いつく人がいると、否定も肯定もできないのですが、プラトンは宗教的な、詩的な人だったのでしょ。

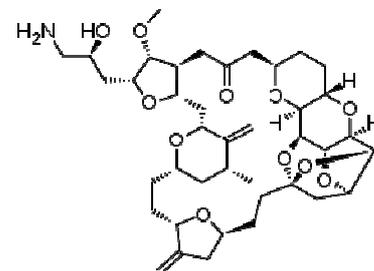


アテナイの会堂(ラファエロ)より

## 軟部肉腫に対するエリブリンの承認に関して

軟部肉腫の治療薬として、エリブリンが承認されます。この薬剤は、海の生物であるクロイソカイメンから得られた抗がん剤で、細胞分裂に必要な微小管を阻害する薬剤です。微小管に作用する薬剤としては、ビンカルカロイドやタキサン系の薬剤が知られていますが、これらとも異なる作用の仕方ということです。微小管に作用する薬剤は、末梢神経障害が起こりやすいのですが、この薬剤もしびれが出やすいようです。

注射または点滴での投与となり、治療に要する時間が短い薬剤となります。外来で治療するには、短時間で投与が済むので、メリットが大きいと思います。薬価が決定され、流通してくるまでには、もう少し時間がかかるとは思われますが、昨年のトラベクテジンの承認に続き、軟部肉腫の薬剤が増えるということで、この領域の進歩が感じられますね。



エリブリンの構造式 (wikipediaより)

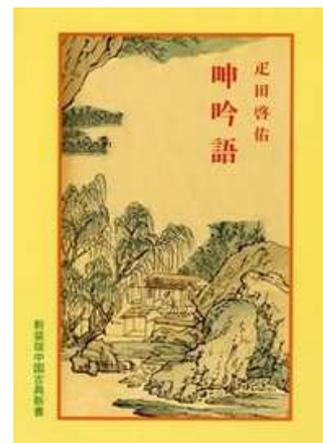
## 呻吟語

明の時代の、呂新吾という人が書いた本です。新書で紹介した本もありますが、なかなか奥深い内容の本で、この内容を理解すると、時間をかけて読む必要があるような本です。この本の有名な言葉としては、

深沈厚重なるは、これ第一等の資質。  
磊落豪雄なるは、これ第二等の資質。  
聡明才弁なるは、これ第三等の資質。

という言葉があります。

現代では陽気な人間が求められていて、明るい、聡明な人間がよしとされています。暗い、重厚なというと、どちらかと言えばマイナスのイメージで、採用面接ならば良い点数がつかないような印象ですが、伝統的な東洋の人物評価は、明るい、聡明な感じの人材は第三等で、慎重で重厚な性格、陽気というよりは陰気な方を第一に置いているのですね。



## MEMO

### 3月のがん化学療法科の予定

3月3日	ひなまつり
3月11日	柴田教授外来
3月20日	春分の日
3月21日	振替休日
3月25日	柴田教授外来

新渡戸稲造記念 メディカル・カフェはインフルエンザ流行期のためお休みとなります。

